

【Insectopia (インセクトピア)】とは： insect (虫) と utopia (理想郷) を掛け合わせた造語『虫たちを含む、地球上に生きる全ての仲間が快適に生きることができる世界』を創るため、SHELLグループがお届けする情報発信ニュースレター。



宿泊施設におけるトコジラミ被害拡大防止に向けて

日本国内外で被害が広がり続けているトコジラミですが、その被害は宿泊施設へ多大な悪影響を及ぼします。シェルグループでは被害拡大を未然に防ぐ『予防』に注力した事業を展開しています。その具体例をトコジラミの恐怖や被害の実態を交えて紹介していきます。

新型コロナウイルス収束、そしてトコジラミの被害拡大へ
世界各国で大流行した新型コロナウイルスが収束に向かっていた2023年、息つく間もなく人々を脅かしたのが『トコジラミ』です。2023年秋、フランスや韓国でのトコジラミ被害が世界的に話題となりました。その後、日本でも東京・大阪を中心に被害が拡大し、同年冬にはトコジラミに関するニュースがテレビやネットニュース、SNSなど様々な媒体で飛び交うようになりました。新型コロナウイルスのパンデミック終結後、増加する海外からの帰国者や訪日観光客、国際宅配の活発化により、トコジラミの被害に直面しています。日本でも今後さらに対策が求められる状況です。

トコジラミに関するセミナーを実施

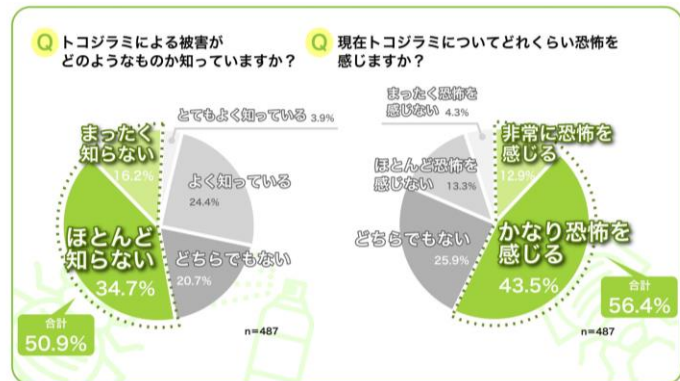
弊社は2023年秋、ホテル事業者を中心とした宿泊施設向けのトコジラミに関するセミナーを実施し、トコジラミの発生や繁殖などの専門知識を海外視察で得た知見も交えて、様々な事例を紹介しました。また、参加者へ各企業でのトコジラミ対策の一助となるべく、自社開発したトコジラミ専用トラップや資料などを配布し、トコジラミ対策のPR活動をおこないました。その後、日本でも至るところで報道が活発になり、多くのホテル事業者の方から事前対策や被害防止への相談を頂いています。ホテル事業者の方々も昨今のトコジラミの被害拡大を受け、迅速な対応をするべく情報収集をしている段階といえます。

一般向けのトコジラミに関する意識調査を実施

日本国内でのトコジラミの被害拡大に伴い、SNSなどで一般の方々が出くわす機会も多く見受けられますが、実際のところ、一般の方々はどういったトコジラミについて

知っているのでしょうか？弊社では全国の10代から70代の男女487名を対象としたトコジラミの被害の実態に関するアンケート調査をインターネットで実施し、PR TIMESにてリリースしました。（詳細は裏面InformationのURLからご確認いただけます）このアンケートは、一般の方々のトコジラミに関する認識や意識を調査し、ホテル事業者へ対策の基本となる一次情報を提供することを目的に実施しました。アンケート結果からは、『トコジラミ』という言葉は知っているものの、その脅威や特徴については詳しく知らない人が多いことが分かりました。また、ホテルなどの宿泊施設に泊まる際にトコジラミの対策を実施している人は全体の7%のみで、約半数は「対策方法がわからない」と回答しています。さらに、仮に同じ条件の部屋でトコジラミの予防対策が施された客室がある場合、3割の人が「500～1000円の追加費用を払っても良い」という回答データも得られました。

(裏面へ続く)



今回のアンケートを通して明らかになったことは、トコジラミの存在とその被害に対する一般的な認知は比較的高いものの、具体的な特性や対策方法に関する知識は不足しているということです。多くの人々がトコジラミに対して“漠然とした”不安を感じている今だからこそ、宿泊施設におけるトコジラミ対策の有無は全体評価を左右するものになるといえます。現在はSNSをはじめ、正しい情報と信憑性に欠ける情報の両方が行き交っています。しっかりと適切な情報収集をし、有効的な対策を行なうことがとても重要です。

宿泊施設のトコジラミ発生リスク

インバウンド観光客が増える中、宿泊施設の安心感を保つために、トコジラミ対策は宿泊施設側が考えるべき重要な課題です。基本的にトコジラミは人の移動と共に、衣服や荷物にくっついて持ち込まれます。その為、ゴキブリやねずみ等の害虫とは違い、その発生に関して部屋が不潔かどうかはまったく関係ありません。トコジラミの怖さは急激な増殖サイクルと吸血性を兼ね備える点です。メスは毎日2~5個の卵を産むため、メス1匹を放置すると半年で3万匹まで増える恐れがあります。駆除は専門業者でないと困難で、最近では、薬剤が効かない『スーパートコジラミ』も出現し、対策を複雑化させています。万が一、発生した場合は、原則客室を売り止めにして駆除作業をおこないます。血糞により家具や屋内が汚損する可能性もあり、その場合、作業費用以外のコストもかかってきます。発見が遅れるほど経済的被害も拡大し、宿泊施設側にとって大きな負担がかかります。そして、トコジラミの発生が宿泊施設の風評被害となり、事業活動に甚大な影響を与える可能性もあります。これらを最大限に防ぐためには、効果的な予防策の推進と早期発見、この二つが重要になります。



被害拡大防止のための『予防・拡散防止』商材

トコジラミの被害をなるべく拡大させない施策として、シェルグループでは『予防・拡散防止』という視点にフォーカスして三つの商材を提供しています。

- I トコジラミ専用トラップ<早期発見>
- II 忌避テープ<拡散防止>
- III e-Learningプログラム<教育、啓蒙>

I、IIは、今年春に改良版をリリースする予定です。
IIIは、トコジラミに関する正しい知識を現場担当者や管理者が学べるものになっています。

シェルグループではこれらの商材を用いて、ホテル事業者の方々と協調しながら、トコジラミの被害拡大防止に向けて尽力していきたいと考えています。

今月のInsect



写真/解説
中峰 空
8thCAL技術顧問
真面目昆虫館館長



マルグンバイ

(丸軍配)

カメムシ目グンバイムシ科

学名: Acalypta sauteri

体長2mm前後の小さいグンバイムシ科のカメムシ。様々なコケの間に生息する。翅の形が特徴的で凹凸がおもしろい。日本産のマルグンバイ類は全て短翅型で飛ぶことができない。秋に新成虫が羽化し、成虫で越冬すると考えられている。

Information

●メディア掲載情報

全国の10代から70代の男女487名を対象としたトコジラミの被害の実態に関するアンケート調査をインターネットで実施。その結果をPR TIMESにて掲載しました。

<https://x.gd/K9wxH>



●Pick up 展示会情報

国際ホテル・レストラン・ショー

(※弊社は出展していません。)

会期: 2024年2月13日(火)~2月16日(金)

会場: 東京ビッグサイト

サステナブルグッズEXPO

(※弊社は出展していません。)

会期: 2024年3月13日(水)~3月15日(金)

会場: 東京ビッグサイト

Insectopia インセクトピアの配信登録はこちらから！

QRコードを読み取り後、登録フォームよりご登録ください。
ニュースリリースや採用情報、イベントなどの最新情報を
配信中です。

